



地域防災とラジオの発信力

熊本で7月28日に発生した大地震では、嘉島町にあるイオンモールでのガス爆発や八代市で日本製紙の高さ80メートルの煙突が折れての建物直撃も含めて、39名の尊い人命が奪われた。また折からの猛暑の下、地震にともなう停電と断水。酷暑の中、片付けもままならず不自由な生活を余儀なくされる毎日。先の大地震から10年を経過し、やっと落ち着きを取り戻してきたかと思った矢先での再度の大地震。被災された皆さまには心よりお見舞いを申し上げます▼こうした大地震が東京をはじめとする大都市で発生した場合のことを考えると、正直、頭が痛い。地域での会合等で、消防や警察からは、大地震が発生した場合、少なくとも3日間は消防や警察は緊急の人命救助で手一杯。救急車を呼んでも駆けつけることは不可能につき、基本的に自らの命は自分で守ってほしい、との話がされる。地域では自治会等への期待もあるが、その実情は地域コミュニティは希薄化し、表札を出さない家も増えるなど、向こう三軒両隣で声を掛け合い、助け合うような状況にはない。自治会長の身にとって、悩ましく頭を痛めるばかり▼こうした中、8月8日に、東京・府中市の防災FM・地域情報ラジオである「ラジオTAMARIバー」の番組「防災とまちづくりの時間」にひよんなことから出演した。府中市自治会連合会役員で防災士の筒井孝敏さん等が企画・放送。ここで私と農業を中心に話している中で、防災の注意呼びかけ、関連イベントのお知らせ、熊本に飛んだスタッフからの現地報告等を織り交ぜながら、1時間半の生放送で、しかも毎週、地域防災についての啓発を続けている。スタッフの力量と府中の市民力があってこそこの番組。FM放送を通じての呼びかけは新鮮で、防災を諸々の切り口で考える、貴重な機会でもあった。

(土着菌)